

札幌国際芸術祭2020 開催概要発表

オブ ルーツ アンド クラウドス

「Of Roots and Clouds：ここで生きようとする」を テーマに2020年12月開幕

会期：2020年12月19日(土)～2021年2月14日(日) [58日間]

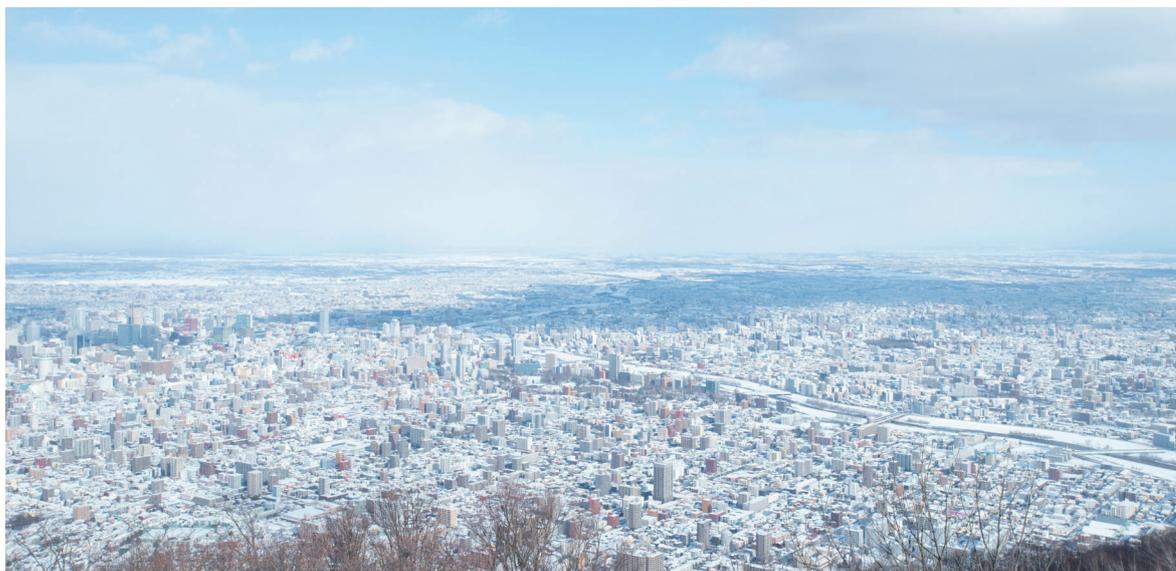


Photo by Noriko Takuma

札幌国際芸術祭実行委員会では、3名の専門家によるディレクターチームのもと、2020年12月に開幕する札幌国際芸術祭2020 (略称：SIAF2020) へ向けて準備を進めています。

オブ ルーツ アンド クラウドス

SIAF2020のテーマは、「Of Roots and Clouds：ここで生きようとする」です。

このテーマに沿って、雪や寒さを生かしたプログラムや、札幌・北海道、北方圏の歴史や文化、風土を題材とした作品を展示するなど、北の大地ならではの芸術祭をつくり上げていきます。2020年12月19日からの58日間、この街の魅力と文化芸術が共演する札幌国際芸術祭2020に、どうぞご期待ください。

札幌国際芸術祭

[英語] Sapporo International Art Festival

[アイヌ語] Usa Mosir un Askay utar Sapporo otta Uekarpa

オブ ルーツ アンド クラウドス

テーマ「Of Roots and Clouds：ここで生きようとする」

[英語] Of Roots and Clouds

[アイヌ語] Sinrit/Niskur

ディレクターからのメッセージ

大地に張る根 (roots/アイヌ語: ^{シンリツ}Sinrit) と大空に浮かぶ雲 (clouds/アイヌ語: ^{ニシクル}Niskur) は、まさに北海道・札幌の広大な自然を象徴する情景であり、地球における人間の活動範囲と捉えることもできるでしょう。そこには絶え間ない循環と移り変わりがあります。

人々は長い年月をかけて、目に見えないもの、手につかめないものの中に社会を構築してきました。しかし今では、その社会が生み出す膨大な情報により、自分の居場所がわからなくなることもしばしばです。私たちは、普段の生活では見ることのない部分にまで想像力を働かせ、未来を考える必要に迫られています。

札幌国際芸術祭2020は、アートを考えるだけでなく社会を考える芸術祭です。私たち一人一人が、社会に向き合い、共に生きようとするとき、芸術の持つユニークな視点は、現実のさまざまな課題を捉え直すツールや方法としてどう活用できるのか。皆さんと共に考察していきたいと思えます。

ディレクターチーム



Photo by Shingo Kanagawa

企画ディレクター
(現代アート担当) / 統括ディレクター
天野 太郎



Photo by Zbigniew Kupisz

企画ディレクター
(メディアアート担当)
アグニエシュカ・
クビツカ=ジェドシェツカ



Photo by Hájima Kato

コミュニケーションデザイン
ディレクター
田村 かのこ

テーマについて

オブ ルーツ アンド クラウド

Of Roots and Clouds : ここで生きようとする

Of Roots and Clouds (英語)

シンリツ ニシクル
Sinrit/Niskur (アイヌ語)

今を生きる私たちが直面している社会のさまざまな課題と向き合い、より良い未来へのビジョンを明確に描き、実現していくためには、目の前にある物事だけを見るのではなく、視野を大きく広げて、想像力を働かせる必要があります。大地の下で力強く息づく根や、先祖の記憶(ルーツ)、手でつかむことのできない雲のようにはかないものや、テクノロジーが生み出した見えないネットワーク(クラウド)など、地球規模の営みと循環に目を向けることで、見えてくるものがあるはずです。

普段見過ごしがちな視点を、芸術の力を通じて皆さんと捉え直していきたい。

「自分たちはどこから来てどこに向かうのか」。今の時代だからこそ、そのような大きな問いを皆さんと丁寧に考えていきたい、という想いをこのテーマに込めました。

テーマに関しては、先に「Of Roots and Clouds」が決定し、この言葉の持つ意味を表現する日本語を模索する中で、言葉を表現媒体のひとつとして活動する美術作家 関川 航平氏に相談しました。その結果、テーマの背景にあるコンセプトをくみ取った同氏の提案の中から、すべての人々がそれぞれの課題に向き合い未来へ歩んでいくという、力強い意思を感じられる「ここで生きようとする」を日本語のテーマに決めました。

また、SIAFではこれまでも北海道における芸術祭として、アイヌの人々の文化や創造性を大切に考えてきました。そして3回目の今回は、今に受け継がれる経験や知識への心からの敬意と、未来への協働の意志を改めて示すため、芸術祭のタイトルとテーマにアイヌ語を併記することにしました。SIAF2020アイヌ文化コーディネーター マユンキキ氏に相談のうえ、タイトル [札幌国際芸術祭] は **usa** (=いろいろな) **mosir** (=国) **un** (=～にいる) **askay** (=技能のある、器用な) **utar** (=人々) **sapporo** (=札幌) **otta** (=に) **uekarpa** (=集まる)、テーマは **Sinrit** (=根)、**Niskur** (=雲) としました。Sinritには英語と同じ「起源・祖先」をあらわす「ルーツ」の意味もあります。

SIAF2020はこの「Of Roots and Clouds : ここで生きようとする」(アイヌ語 : Sinrit/Niskur) をテーマに据え、都市と自然が共存する札幌ならではの芸術祭をつくり上げていきます。

今後のスケジュール

2019年9月～

プレイベント実施

※今年度は芸術祭やアートに関わりの少ない方でも気軽に参加できるプログラムを展開していきます。

- ・9月下旬(予定) 芸術祭を知るトークイベント
(会場:愛知県名古屋市内[あいちトリエンナーレ2019連携企画])
 - ・10月中旬(予定) 芸術祭を知るトークイベント
 - ・11月中旬(予定) アーティストと一緒に創作を体験するワークショップ
- 以後、開幕まで芸術祭をより楽しむためのプログラムを順次、実施予定

2020年2月上旬

記者発表 第2弾

参加アーティスト、メインビジュアル、ボランティアなどを発表予定

2020年9月

最終発表

参加アーティスト、展示内容、チケット、シャトルバスなどを発表予定

SIAF2020 開催概要

名称

札幌国際芸術祭2020 (略称: SIAF2020)
Sapporo International Art Festival 2020 (英語)
ウサ モシリ ウン アシカイ ウタラ サッポロ オッタ ウエカラバ
Usa Mosir un Askay utar Sapporo otta Uekarpa (アイヌ語)

テーマ

オブ・ルーツ アンド クラウドス
Of Roots and Clouds: ここで生きようとする
Of Roots and Clouds (英語)
シンリツ ニシクル
Sinrit/Niskur (アイヌ語)

会期

2020年12月19日(土)–2021年2月14日(日) (58日間)

主な会場

札幌芸術の森
札幌市民交流プラザ
北海道立近代美術館
mima 北海道立三岸好太郎美術館
札幌大通地下ギャラリー 500m美術館
札幌市資料館
モエレ沼公園

ディレクターチーム

企画ディレクター(現代アート担当) / 統括ディレクター
天野 太郎
企画ディレクター(メディアアート担当)
アグニエシュカ・クビツカ=ジェドシェツカ
コミュニケーションデザインディレクター
田村 かのこ

キュレーター

札幌芸術の森担当
佐藤 康平
北海道立近代美術館・mima 北海道立三岸好太郎美術館担当
中村 聖司
アートメディアエーション担当
マグダレナ・クレイス

SIAF2020アイヌ文化コーディネーター

マユンキキ

主催

札幌国際芸術祭実行委員会 / 札幌市

お問い合わせ

札幌国際芸術祭実行委員会事務局(担当:石田、國安、新井田)

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目札幌時計台ビル10階 札幌市市民文化局国際芸術祭担当部内

TEL: 011-211-2314 | FAX: 011-218-5154 | E-mail: press@siaf.jp